



## あきた型学校評価システムに基づく「学校評価」について (1)

前号で学校運営協議会（紙上開催）の概要をお知らせしましたが、評価委員の方から目標に対する取組や結果について評価していただきました。今回は、**学校経営**についての評価シートを紹介します。

|            |   |              |
|------------|---|--------------|
| 重点目標       | 地域に開かれた教育課程の実施とコミュニティ・スクールを基盤とした学校経営の推進を図る。   | P<br>目標設定・計画 |
| 現 状        | 地域に支えられ、地域と共に歩む学校を基本とし、保護者・地域の期待を尊重しながら、教育活動を進めてきた。今年度創立10周年を迎え、さらに地域との連携を強化し、地域の声を生かした学校経営を一層推進していくことが求められる。コミュニティ・スクール導入から7年目、ふるさと（人・もの・こと）に関わる教育活動の充実を図り、ふるさとのよさを実感できる活動を、また地域への感謝の気持ちをもち、自信と誇りを育む活動を工夫しなければならない。  |              |
| 具体的な目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校便り等の内容が適切」「学校の目標や取組を分かりやすく伝えている」（保護者アンケート：90%以上）</li> <li>・「保小・小中において効果的な交流を通して連携を深める」（保護者・職員）</li> <li>・「地域のためになる活動に進んで取り組みたい」（児童質問紙：県平均）</li> <li>・「楽しく充実した学校生活を送っている」（保護者アンケート：95%以上）</li> <li>・「自分にはよいところがある」（児童質問紙：県平均）</li> </ul>  |              |
| 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な情報公開（子どもの姿や声、各種調査等の紹介など、各種通信、ホームページの積極的な活用）</li> <li>・保小、小中連携の強化（各種会議、行事等での一層の連携）</li> <li>・ふるさとの人・もの・ことに関わる豊かな教育活動の推進（地域、各種団体、関係機関の教育力（外部人材）を効果的に活用）※協働活動の事業</li> <li>・自己肯定感を育てる学習活動・特別活動（縦割り活動）の推進（一人一人に活躍の場を保障、体験活動の重視）</li> </ul>   |              |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種通信の他、特にホームページの更新に努め、子どもたちの活動の様子など早めに伝えるようにした。</li> <li>・保小、小中連携では、校区カレンダーを作成し、見通しをもって交流を計画した。保小連絡協議会、園訪問、小中連絡協議会等の会議や、駅伝大会、授業参観等は実施できたが、交流行事の開催は難しかった。</li> <li>・中止になった行事も多かったが、教科等の指導においては、地域の方の協力をいただき、効果的な学習を行うことができた。</li> <li>・創立10周年ということで「一人一人の活躍で歴史をつなごう」のキャッチフレーズの下、全校縦割り活動（運動会、駅伝、縦割り遊び等）や係や委員会活動で一人一人が活躍する場を設定することで、自己肯定感・自己有用感の醸成に努めた。</li> </ul> | D<br>実践      |
| 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートによると「学校便り等の内容が適切」「学校の目標や取組を分かりやすく伝えている」はそれぞれ88%、「楽しく充実した学校生活を送っている」については93%であった。4年生以上の児童質問紙でも「学校が楽しい」と答えた児童は93%で同じ数値となり、いずれも目標とほぼ同じであった。</li> <li>・「自分にはよいところがある」については、学年差はあるが、平均85.5%であった。県平均より7%低く目標を達成できなかった。</li> <li>・「地域のためになる活動に進んで取り組みたい」は、88.9%で県平均とほぼ同じ結果となった。</li> <li>・保小・小中において効果的な交流を通して連携を深めることについては、保小・小中それぞれの職員間で情報交換を行った。</li> </ul>  |              |

|      |           |  |         |
|------|-----------|--|---------|
| 自己評価 | (評価)<br>B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・創立10周年のキャッチフレーズ「一人一人の活躍で歴史をつなごう」について、全職員で共通理解を図った。縦割り活動や係・当番活動での一人一人の子どもの活躍する場(役割)を意識した取組により、学校が楽しいと感じる子どもが多かったと思われる。しかし、自分に自信がもてなかったり、自分のよさに気付かない子どもも見られるので、一人一人の実態をよく見て適切な支援をしていく必要がある。</li> <li>・コロナ禍のため、感染拡大防止対策をとりながらできることを工夫しながら活動してきた。中止になった行事が多くあったが、保護者アンケートには、運動会や駅伝などでの子どもの活躍のことや縦割り活動のよさについて、また各学年の校外学習での充実した学びについて触れた内容が多く、子どもの成長が感じられたというコメントが見られた。</li> </ul> | C<br>評価 |
|------|-----------|--|---------|

↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

|            |           |  |         |
|------------|-----------|--|---------|
| 学校関係者評価と意見 | (評価)<br>B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会全体がコロナ禍の中、地域・子どもたち・関係機関と連携していこうという姿が伝わった。特に学校通信での子どもたちの活躍や各種行事への様々な配慮が伝わってきた。継続して取り組んでいただきたい。また、ホームページで写真を多めに載せ、閲覧する側に見やすく飽きないような配慮が感じられとてもよかった。</li> <li>・アンケートでも体験学習や駅伝大会等で子どもの成長を実感できたという声が多く、子どもたちも協力して取り組む楽しさや喜び、地域への感謝の気持ちが育まれたことと思う。今後成長し困難に遭遇した時やふるさとを出た後も心の拠り所として戻れる場所であってほしい。</li> <li>・小規模校のメリットを生かし、一人一人活躍できる場を設定していただいているが、更に子どものいいところを見付けほめるなどの適切な声かけが、子どもたちの自信につながり、自己肯定感の向上につながるものと思う。</li> </ul> | C<br>評価 |
|------------|-----------|--|---------|

|                       |  |          |
|-----------------------|--|----------|
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで以上に積極的な情報公開に努め、子どもの活動や声、各種調査等の紹介など、各種通信やホームページの積極的な活用を図っていく。</li> <li>・ふるさとの人・もの・ことに関わる豊かな教育活動の一層の推進を図っていく。(地域、各種団体、関係機関の教育力(外部人材)を効果的に活用)</li> <li>・教育活動全体を通して、一人一人の活躍の場を保障したり、子どものよさを積極的に見付け、認める、ほめるなど適切な声かけを通して、自己肯定感、自己有用感を高めていく。</li> <li>・体験学習や学校行事等を通して成長を実感できたという声が多かったことを受け、ねらいを明確にした計画の下、事前指導、事中指導、事後指導の充実を図っていく。</li> <li>・コロナ禍における行事や会議運営について、安全に配慮した計画を考えたい。</li> </ul> | A<br>改善策 |
|-----------------------|--|----------|

## 「6年生ありがとう集会」～感謝の気持ちを伝えました～

3月1日(火)に「6年生ありがとう集会」が開かれ、1年間東由利小のリーダーとして、下級生を引っ張ってくれた6年生に、歌やダンス、クイズやメッセージなどで感謝の気持ちを伝えました。感染対策のため、体育館には6年生と、発表する学年が交替で入り、他の学年は教室からオンラインで参加しました。

※近日中にブログにアップする予定です。



5年生が中心となり、企画・運営を頑張りました。



4年生



2年生



1年生



6年生



3年生